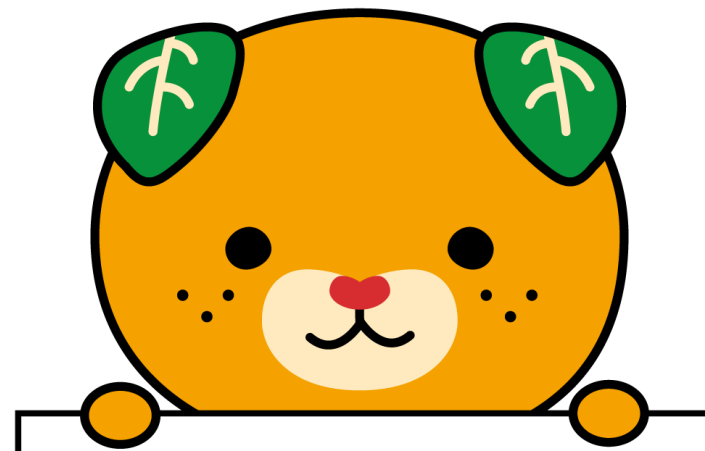


二級河川立間川水系 流域治水プロジェクト



吉田町の概要

- 愛媛みかんの発祥の地 “みかんの町”として発展
- 伊予吉田藩のまちを造るために開削された“国安川”と“立間川（横堀）”
- 沿川の市街地化が進み、単純な河川拡幅が困難



宇和島市吉田町 (立間川流域)

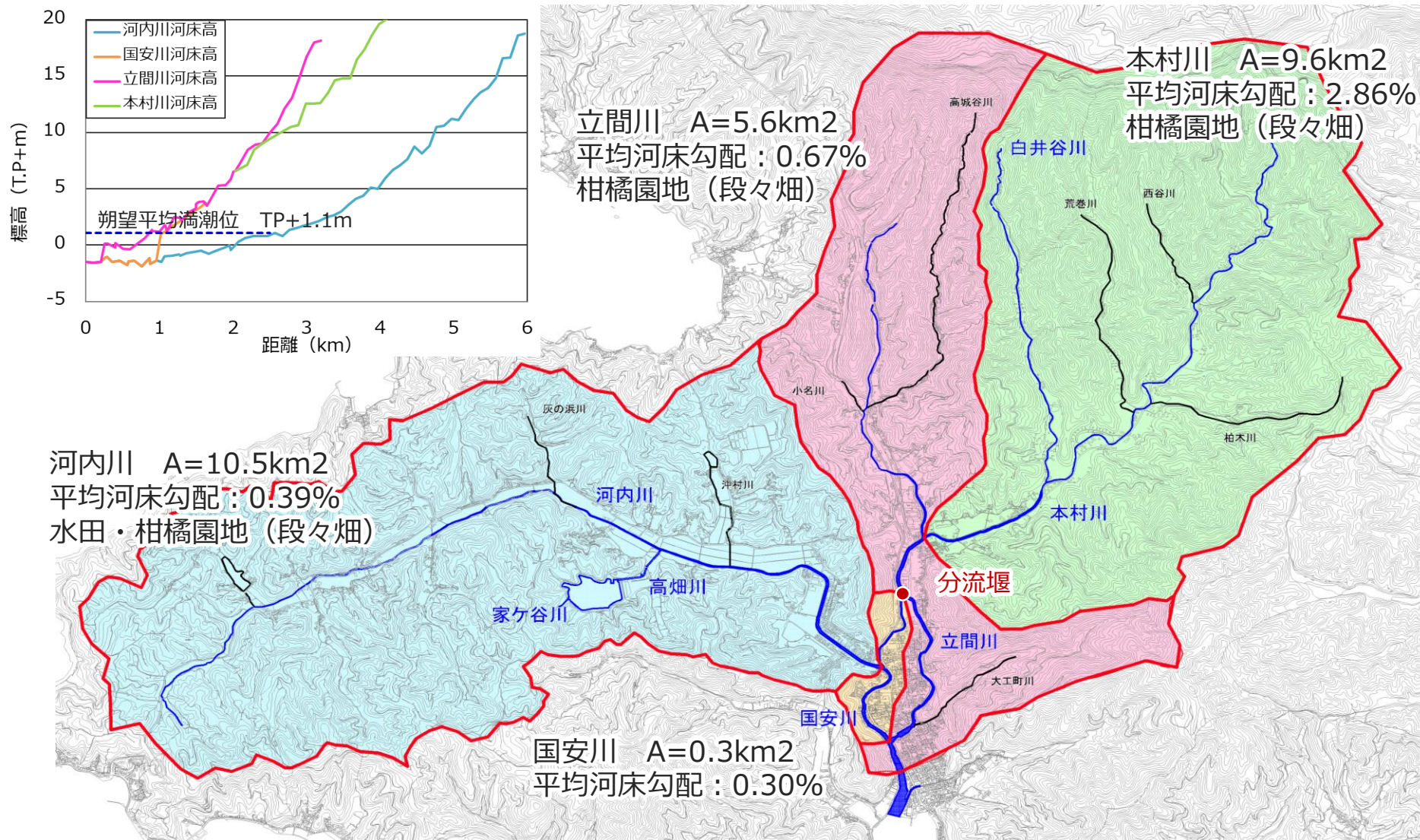


文久元年(1861年)



立間川流域の概要

- 立間川のほか、国安川、河内川などを含んだ総流域面積26.0km²
- 国安川は立間川から**分流**し、河内川を取込んだ後に立間川に**再合流**



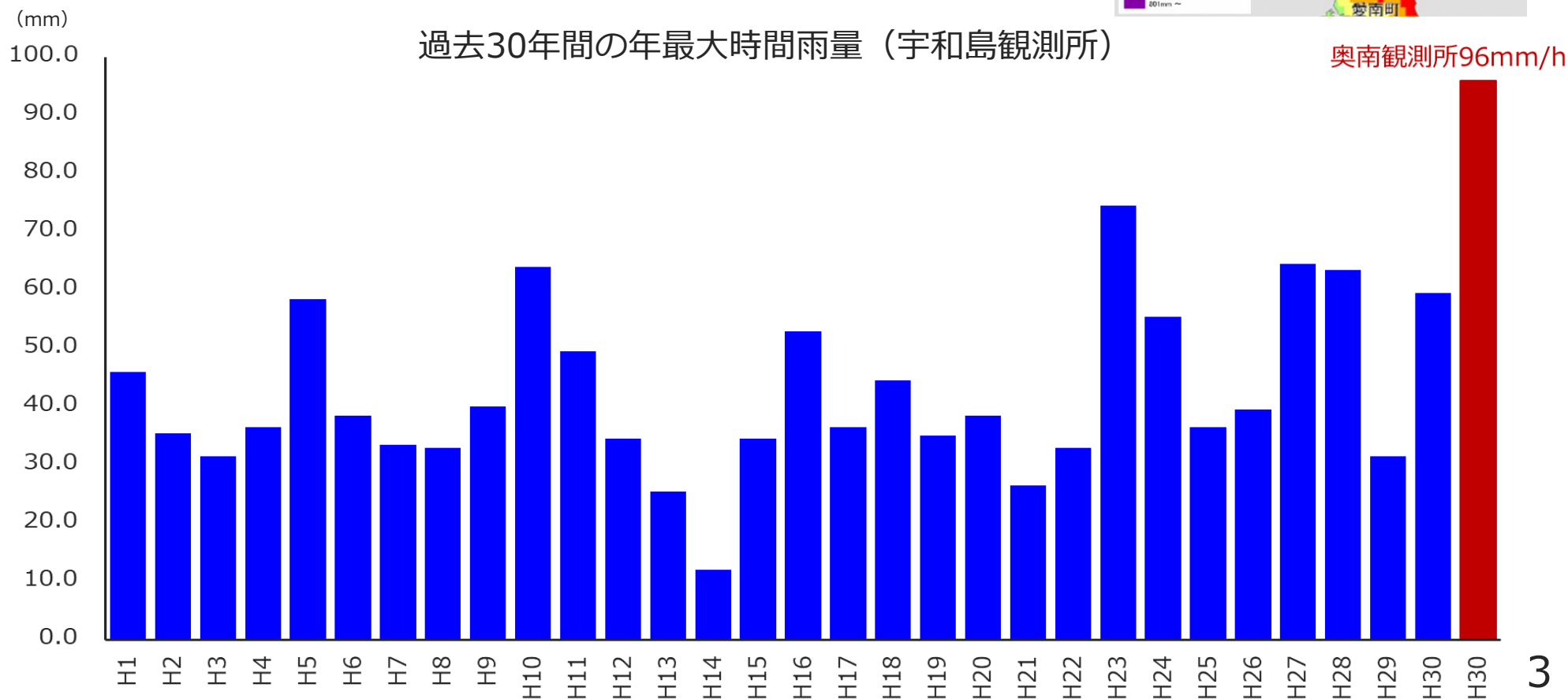
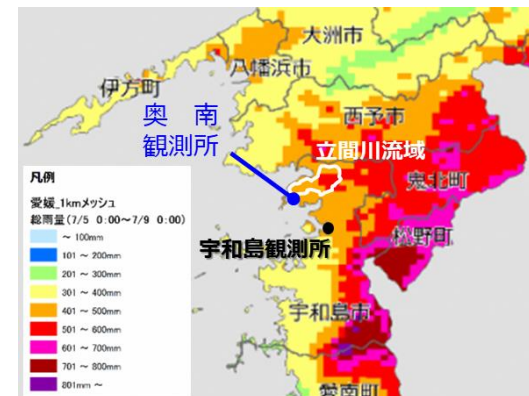
平成30年7月豪雨 (H30.7.5~7.8)

■ 宇和島観測所の総雨量**381.5mm**

7月の月平均降水量の1.6倍

■ 立間川流域近傍の奥南観測所


96mm/h (年超過確率1/500)

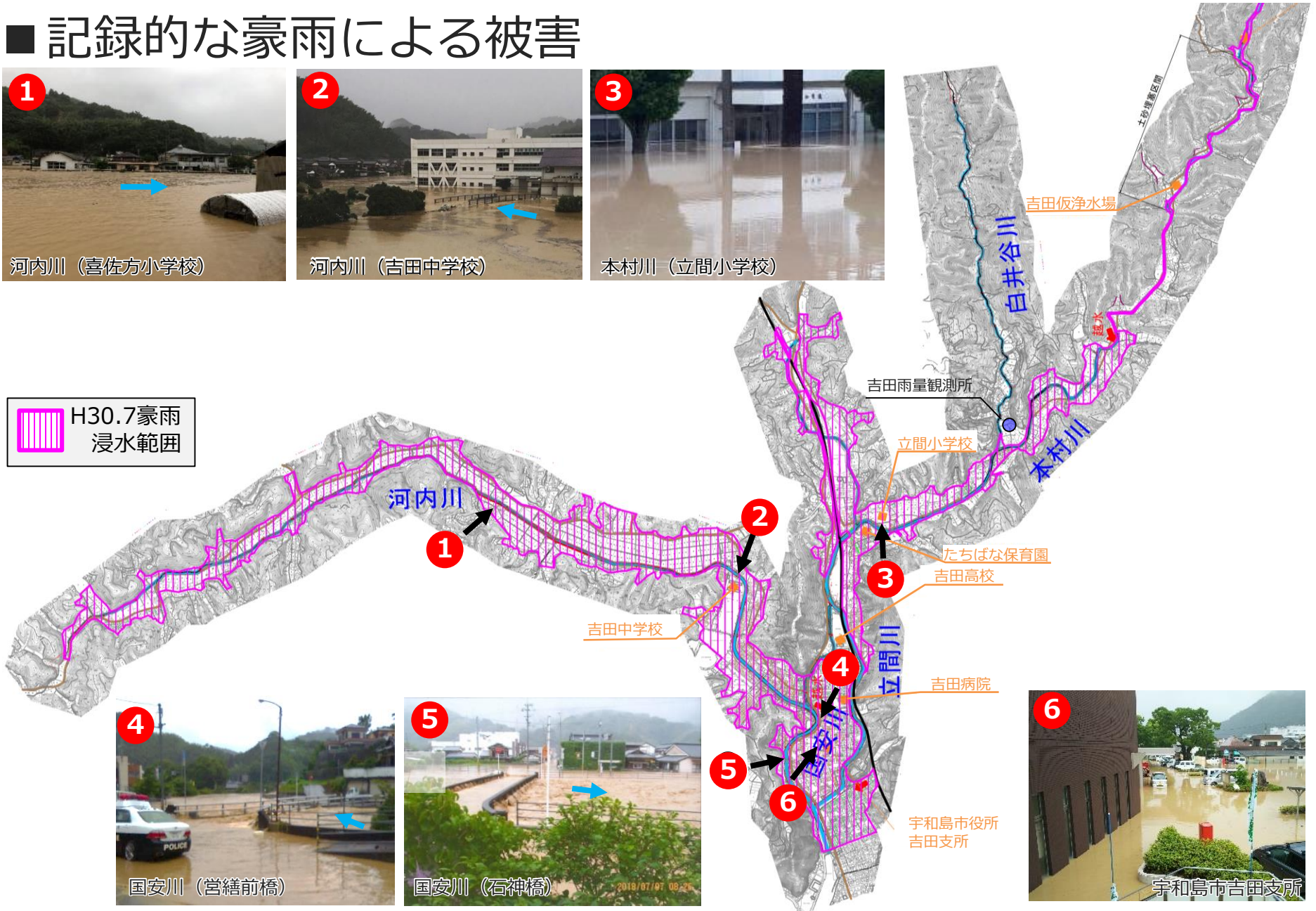


立間川流域の被害状況 (平成30年7月豪雨)

■ 記録的な豪雨による被害



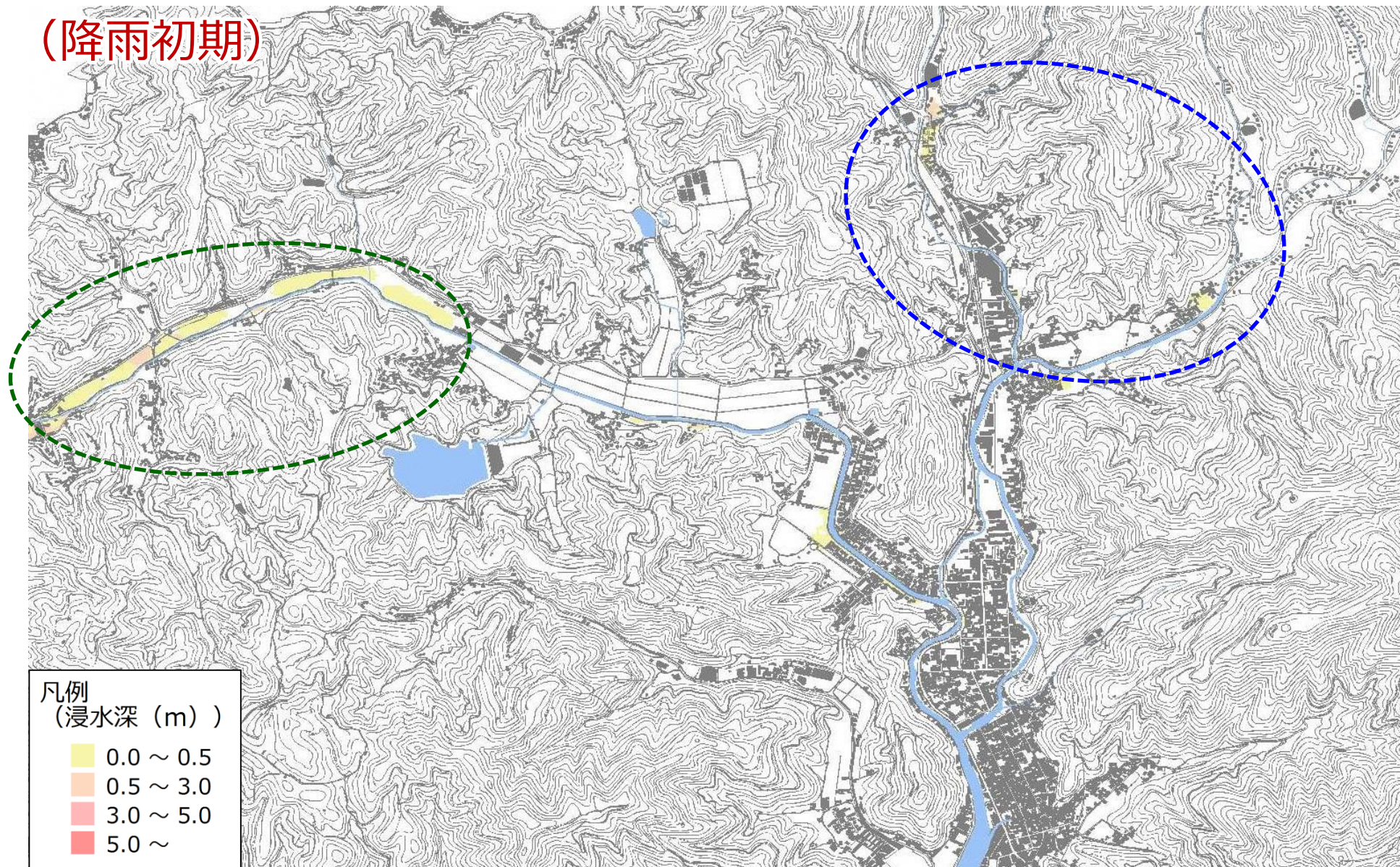
 H30.7豪雨
浸水範囲



平成30年7月豪雨の水害実態分析

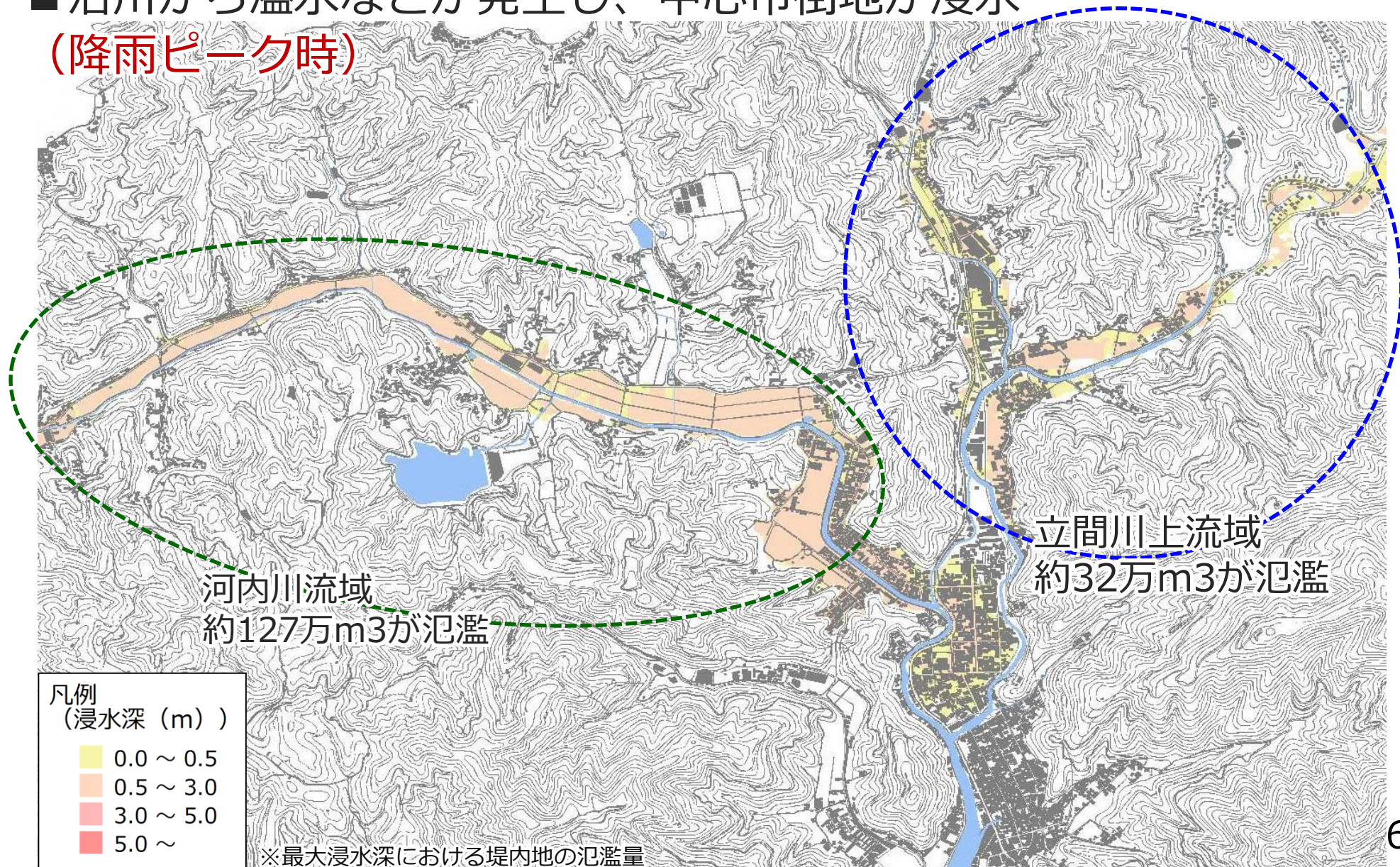
■ 立間川、河内川上流から、氾濫開始

(降雨初期)



平成30年7月豪雨の水害実態分析

- 沿川から溢水などが発生し、中心市街地が浸水
(降雨ピーク時)



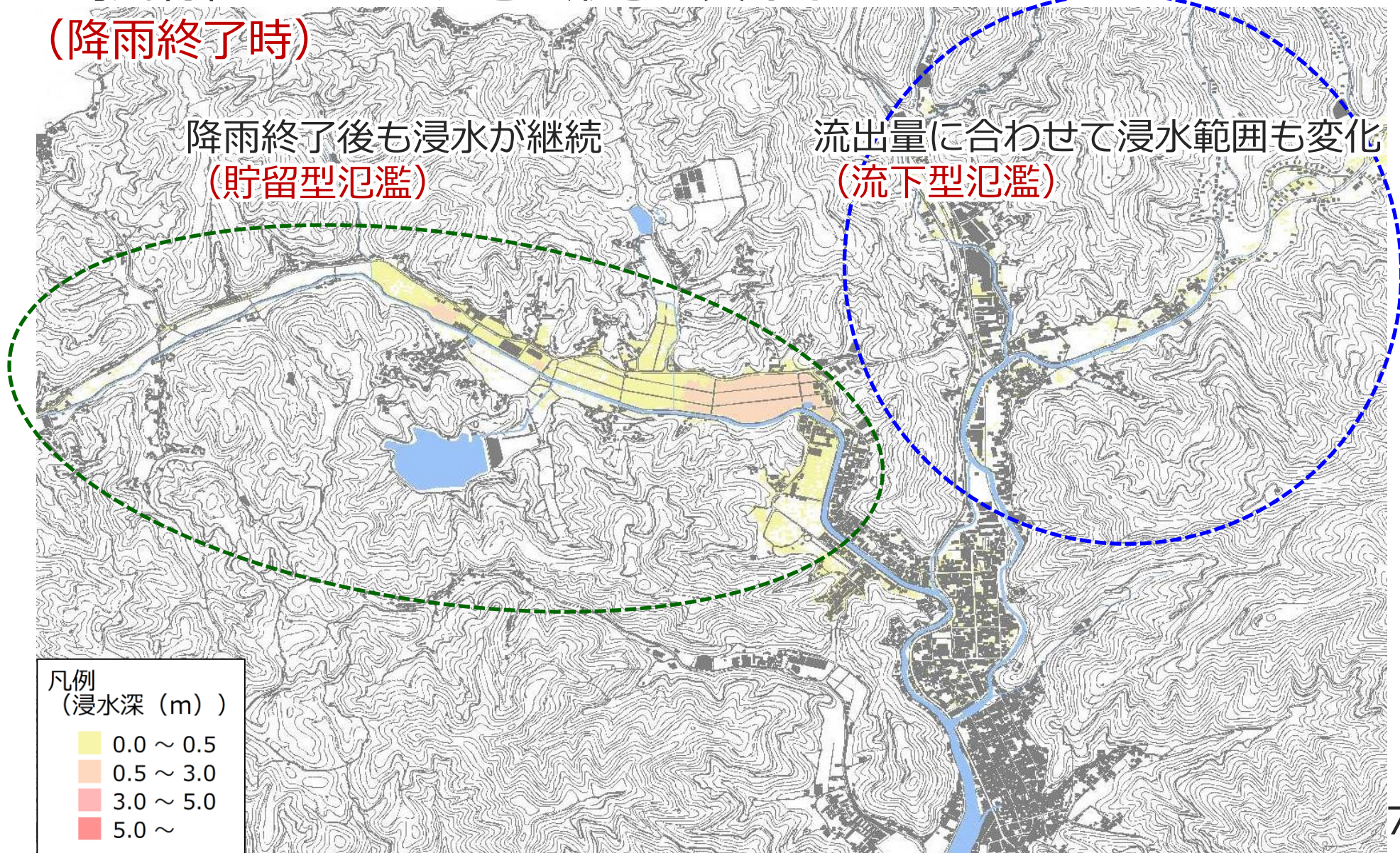
平成30年7月豪雨の水害実態分析

■ 河川特性によって、氾濫形態が異なる

(降雨終了時)

降雨終了後も浸水が継続
(貯留型氾濫)

流出量に合わせて浸水範囲も変化
(流下型氾濫)

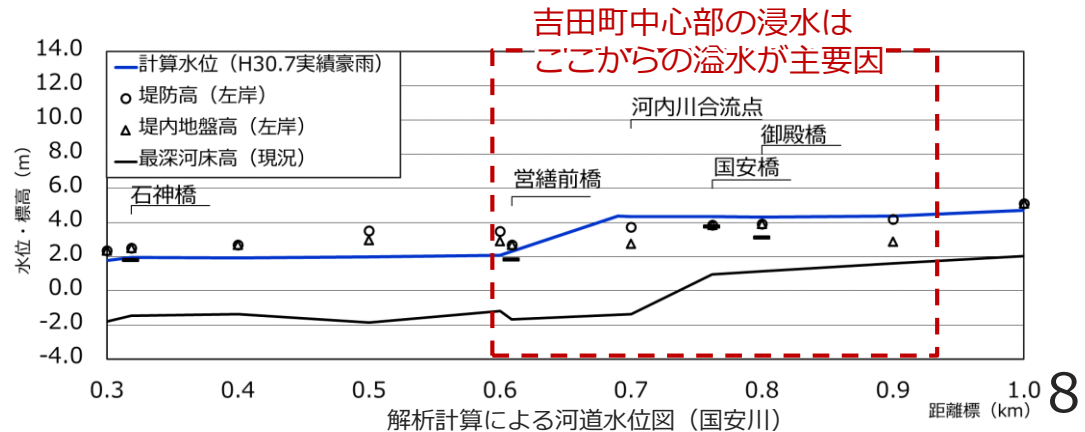
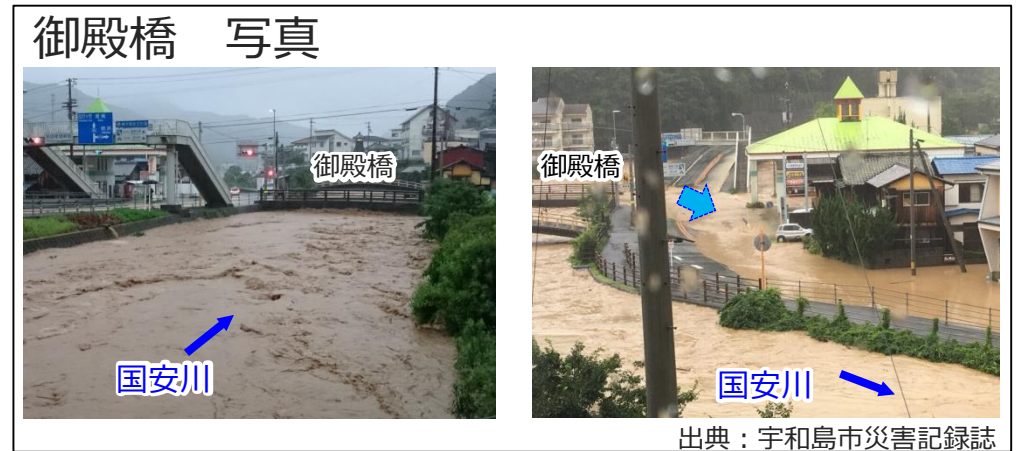
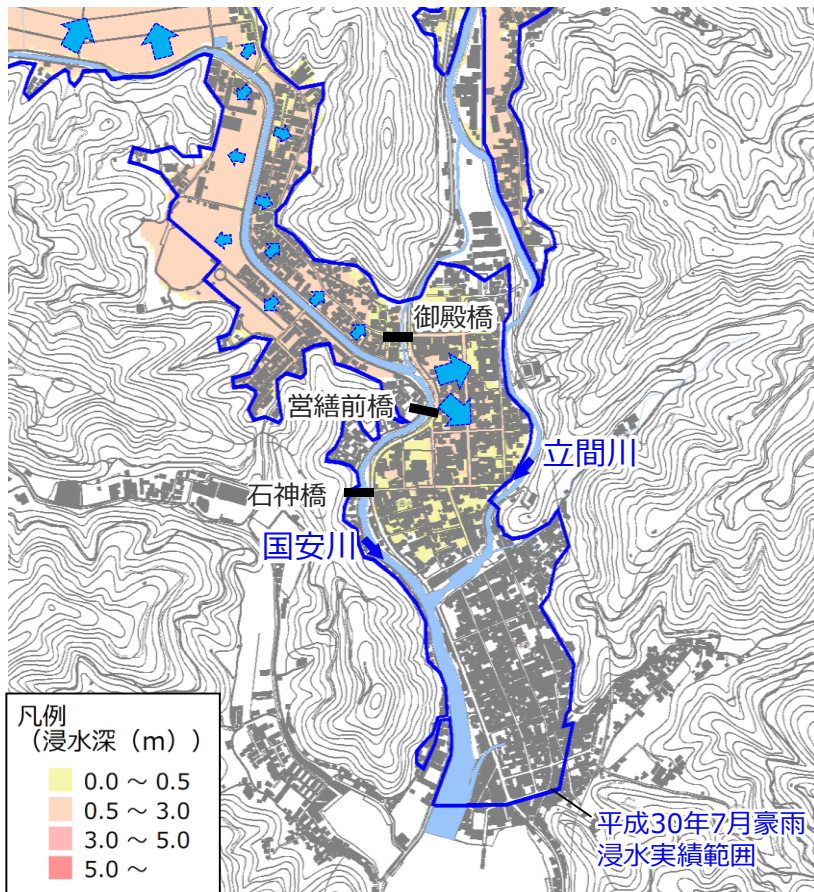


平成30年7月豪雨の水害実態分析

■ 中心市街地（立間川下流、国安川）

- 河内川で氾濫による流量低減がある中、中心市街地も氾濫が発生
- 国安川から約24万m³が中心市街地へ流入（立間川からの氾濫なし）
- 氾濫要因

「橋梁の河積阻害による水位上昇」「地盤の低い宮繕前橋～河内川合流点付近からの溢水」
 ⇒吉田町の中心市街地を防御するためには、国安川・河内川の改修が急務



立間川水系 流域治水プロジェクト

～【陣屋町吉田】みかん産地の文化・産業・暮らしを守る防災・減災対策の推進～

①河川における対策

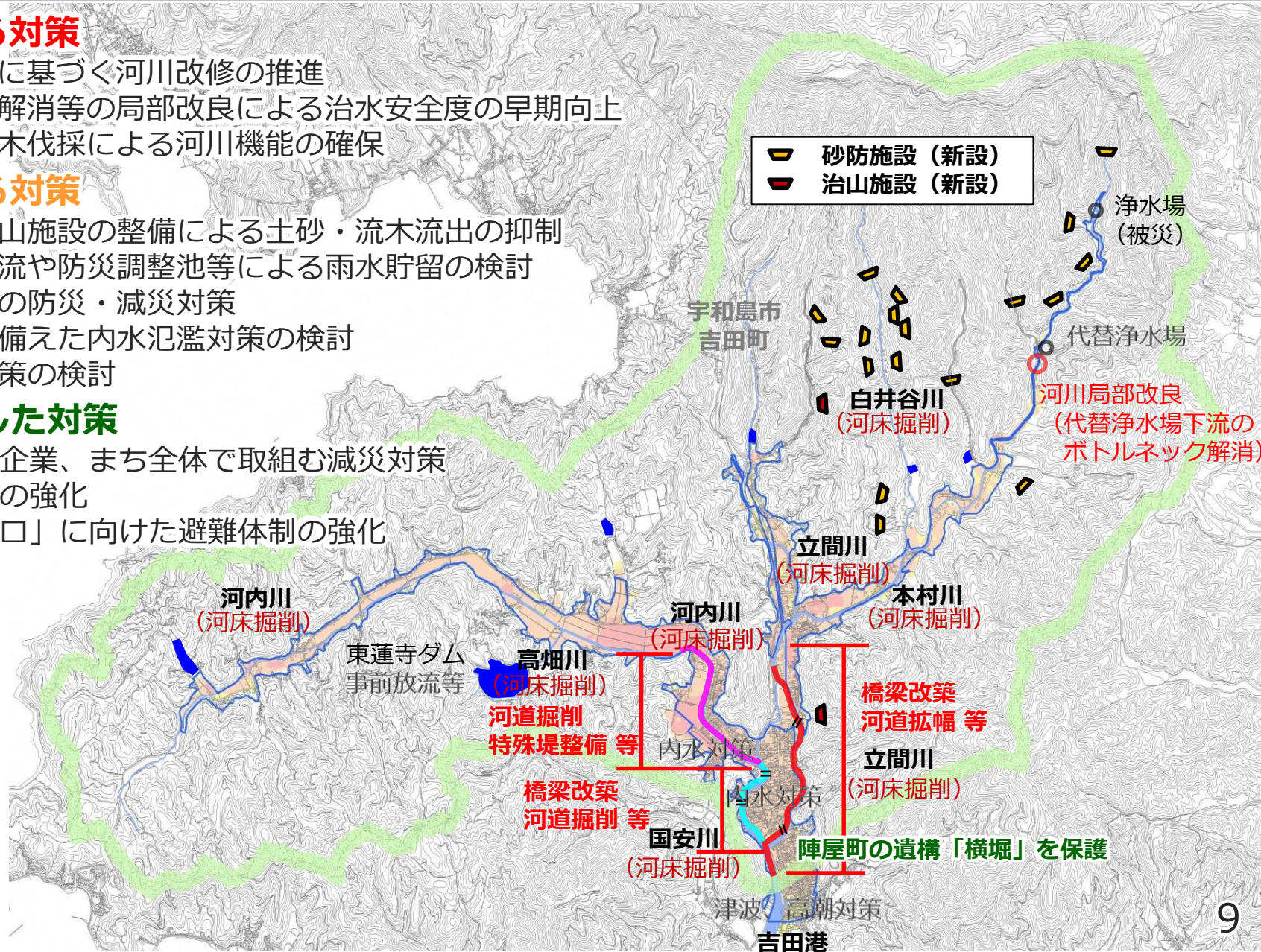
- ◎河川整備計画に基づく河川改修の推進
- ◎ボトルネック解消等の局部改良による治水安全度の早期向上
- ◎河床掘削や樹木伐採による河川機能の確保

②流域における対策

- ◎砂防施設・治山施設の整備による土砂・流木流出の抑制
- ◎ダム的事前放流や防災調整池等による雨水貯留の検討
- ◎ライフラインの防災・減災対策
- ◎大規模出水に備えた内水氾濫対策の検討
- ◎津波、高潮対策の検討

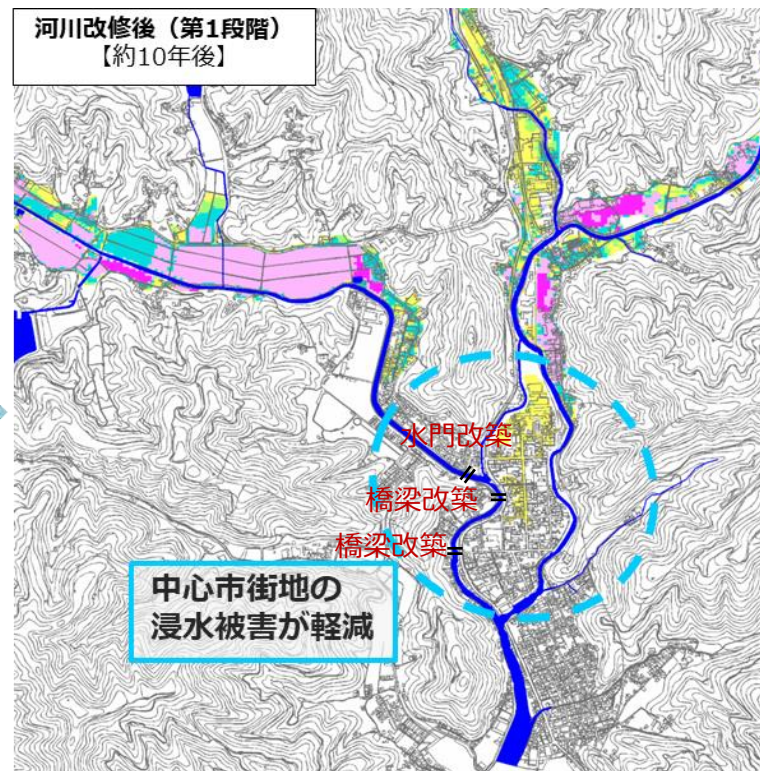
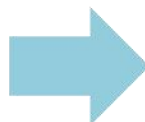
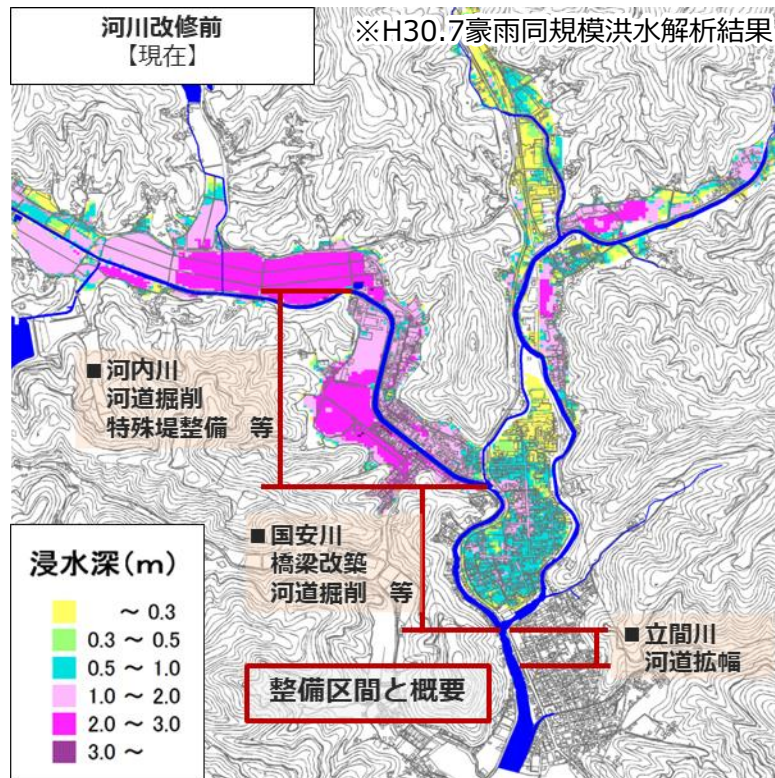
③地域と連携した対策

- ◎住民・地域・企業、まち全体で取組む減災対策
- ◎地域防災機能の強化
- ◎「逃げ遅れゼロ」に向けた避難体制の強化



①河川における対策

■河川改修によって、中心市街地の浸水被害が減少



● 宮繕前橋と石神橋の改築

宮繕前橋→桁下高不足



石神橋→流下阻害(橋脚)



● 水門の改築



● パラペットの整備



②流域における対策

防災調整池等の事前放流

➢ 利水施設の洪水調節機能強化



砂防（急傾斜）事業の推進

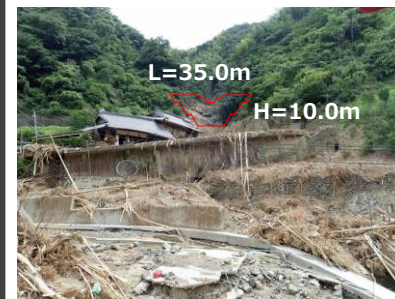
➢ 河川への土砂・流木の流出抑制



砂防施設整備

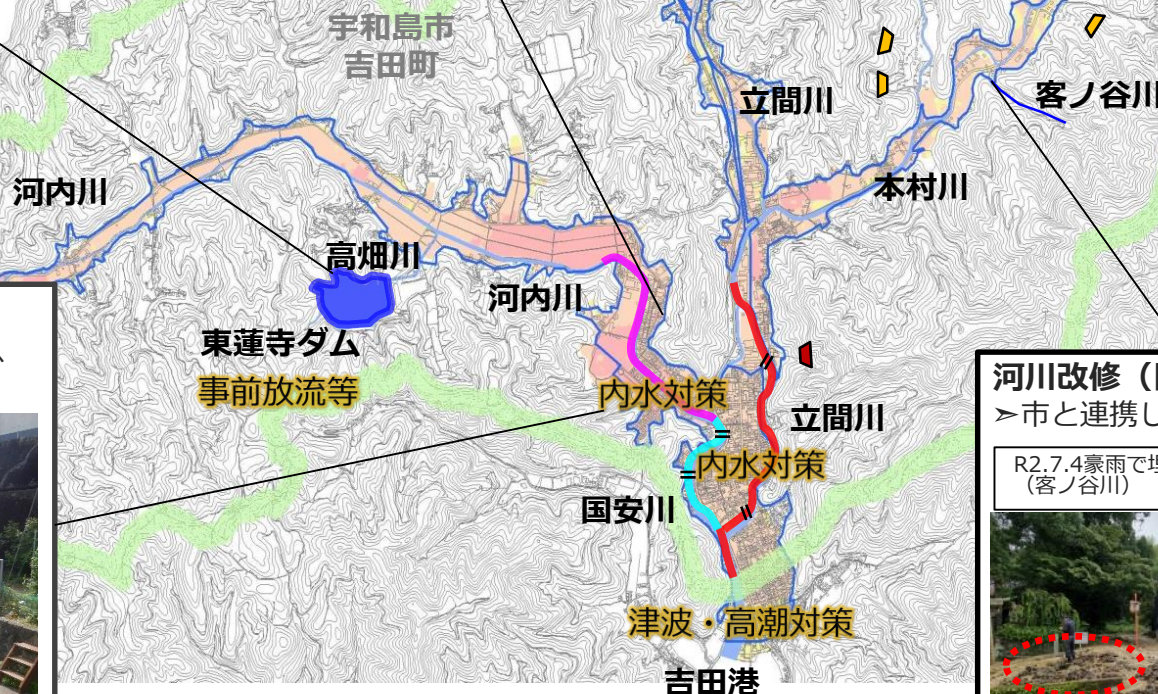
➢ 砂防施設による土砂・流木の流出抑制を計画

家屋被災状況



内水氾濫対策

➢ 排水施設の現況能力を調査し、機能改修等を検討

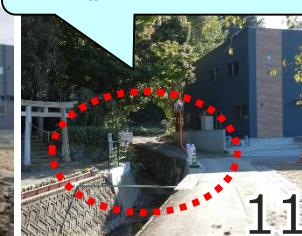


河川改修（旧橋（市道）撤去）

➢ 市と連携した治水ネック箇所の橋梁撤去

R2.7.4豪雨で埋塞
(客ノ谷川)

治水上ネックとなる
市道橋を撤去



③地域と連携した対策

住民・地域・企業、まち全体で取組む減災対策

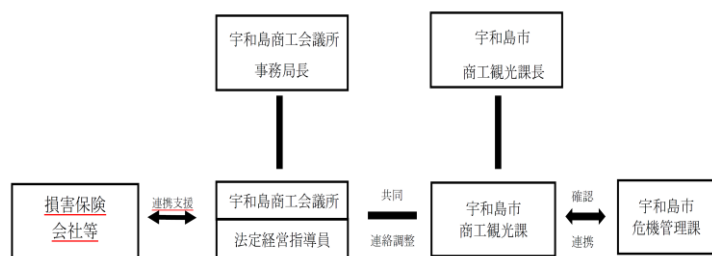
➤ **地元商工会と連携**し、小規模事業者の事業者BCPの策定支援、大規模災害発生時の事業継続力の強化

➤ 防災士の取得、自主防災組織・消防団への参加促進と活動支援

➤ 地域防災力の強化や**防災意識の醸成**を図る

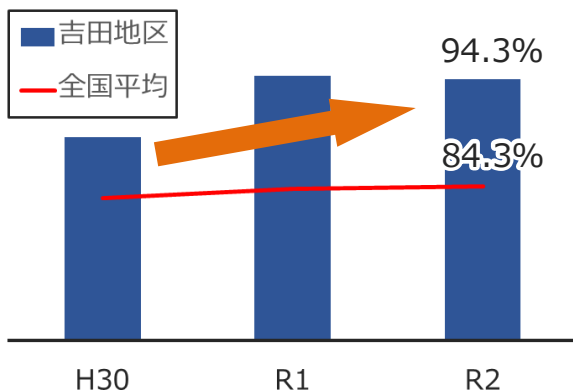
吉田中学校防災学習会実施状況

事業継続力強化支援事業の実施体制



出典 事業継続力強化支援計画

自主防災組織の結成率 (%)



「逃げ遅れゼロ」に向けた避難体制の強化

➤ 水位計・河川監視カメラの設置、防災ラジオやSNS等による**防災情報**の提供



【スマートフォン画面イメージ】

出典 伊達なうわじま安心ナビ

地域防災機能の強化

- **立間川の水位周知河川への指定**
 - ・ 避難勧告等の判断・伝達マニュアルの見直し
- 地域とも連携して、避難情報の伝達訓練を継続実施



大規模災害の被害軽減に向けて、
流域のあらゆる関係者が協働

今後の取組み

- 【課題】
- “3つの河川”、“山地”、“吉田湾”に囲まれ水災害リスクが高い地域でまちが形成
 - 他の地域への居住誘導が困難な“まち”を如何に守っていくか

1. 住み続けられるまちづくりに向けて

◎河川管理者の県

- 河川整備を加速、**治水安全度の早期向上**で被害軽減エリアを確保
 - ・平成30年7月豪雨同規模洪水に対して、中心市街地の浸水家屋数の軽減(10年)
- 被害軽減エリア（整備効果）を分かりやすく情報発信し、まちづくりにつなげる

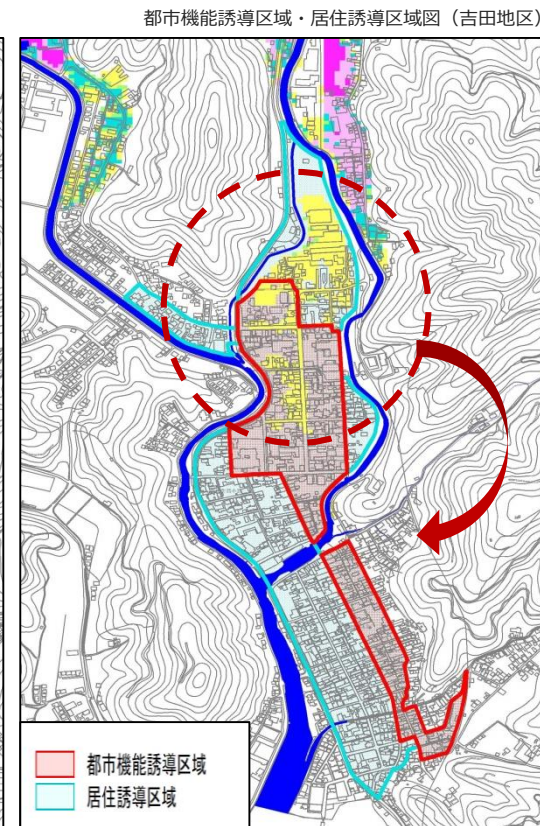
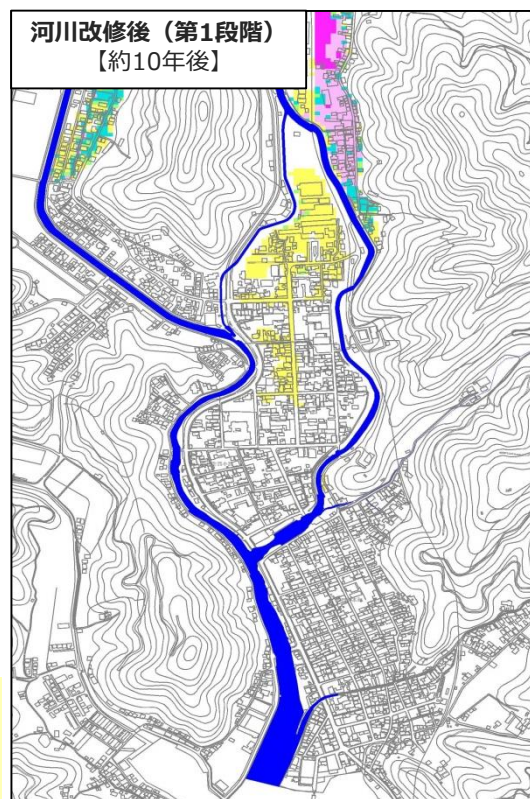


◎まちづくりを担う市

- 整備効果による被害軽減エリアに**居住誘導**
- 空家を活用して効率的に



県・市・地域と連携により、安全な場所に居住誘導



出典 宇和島市立地適正化計画書

2. 津波対策

- 河川管理者（県）と海岸管理者（市）が連携して、**一体的な対策**を検討